

第 25 期

# 同窓会ニュース

佐久総合病院看護専門学校

令和7年9月24日

発行

長野県厚生連佐久総合病院

看護専門学校同窓会

佐久市臼田2238

発行責任者

小松孝子



佐久看護専のこれから

佐久総合病院看護専門学校長

渡辺 仁

早いもので、看護学校の校長職を拝命してから6年目となりました。この5年で看護学校は大きく変わりましたが、その要因の一つはコロナ禍、そしてもう一つが就学人口の減少です。

コロナ禍は学生生活に沢山の負の影響をもたらしましたが、その一方で看護学校のデジタル化を促進しました。必要に迫られての変化でしたが、WIFI環境が整備され電子教科書になりました。

就学人口の減少は、県内の看護大学の増加もあり入学者の減少につながりました。昨年度から正式に募集定員が80人から40人となり、今年は何とか定員数40人を確保することができましたが、就学人口が今後も減少することは確実であり、来年度以降さらに学生確保が厳しくなることが予想されます。

佐久市もこの地域の看護師不足を懸念し、当校、そして佐久医師会と佐久大学の4者で、学生確保について検討を開始しております。同窓会からも良い案がありましたら、ご提案を是非よろしくお願いいたします。

## いのちの学び ひとすじに



大河原あゆみ

副学校長

佐久総合病院看護専門学校

同窓生の皆さまには、日頃より看護専門学校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

本校は昭和35年の開校以来、「いのちの学びひとすじに」という若月俊一先生の言葉を胸に、これまでに5164名の卒業生を看護の現場へ送り出してまいりました。現在、少子化や看護大学志向の影響により、看護専門学校を取り巻く環境は一層厳しさを増しております。

そのような中でも、選ばれる学校づくりや学生支援の充実を目指し、日々模索を続けております。一人ひとりの学びを大切にしながら、地域や社会に貢献できる看護

師の育成に努めております。

本校の教育の質を高め、伝統をつないでいくためにも、同窓生の皆さまのご協力が不可欠です。実習受け入れや講師、後輩への励ましなど、今後ともお力添えをいただければ幸いです。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 3年間の月日の中で

下伊那厚生病院病院 60期生

胡桃沢 幸与

看護学校を卒業して3年が過ぎ4月から看護師4年目を迎えました。3年間勤められるか不安だった新人時代を今も鮮明に覚えています。看護師は幼い頃からの夢でした。夢を実際に叶えて臨床へ出た際は想像以上の忙しさに驚きました。私の勤めている病棟は終末期の方がいます。どんな風に患者様、ご家族と接したら良いかわか

らず悩む日もありました。先輩の声掛けを真似してみたり、患者様の思いを傾聴したり、ご家族と有意義な時間が過ごせるようご家族へ患者様が終末期のどんな状態にあるか伝え、付きそいや自宅へ帰る提案をしました。そんな中ある患者様を看取りました。その後ご家族から手紙をいただきました。そこには「母は苦痛が少なかったと思います。この病院で看取っていただけて良かったです。」と記載されていました。涙が出るくらい嬉しかった出来事でした。生死と向き合うことは悩むことの連続ですがその時の私に出来ることを精一杯行い、少しでも理想の看護師になれるよう過ごしていきたいです。



## 回復期リハビリ病棟で 思うこと

長野松代総合病院 一科 38期生

宮坂 美千子

当院の病院理念である「地域社会を背景とし、環境にも配慮した、安全で良質な医療への、いきいきとした挑戦」のもと、当院看護部では地域包括ケアシステムを考慮した「地域ローテーション研修」が行われています。回復期リハビリ病棟で勤務し4年になります。急性期での治療後、患者さんの身体機能の回復だけではなく、住み慣れた地域で生活できるように、患者さん、ご家族に支援することで地域医療の一端を担っていると感じています。またリハビリスタッフや介護福祉士、MSW、管理栄養士と連携し、チーム医療を行うことで、より看護師の役割を意識するようになりました。患者の高齢化だけではない、患者さん・家族背景の複雑化など困難もあります。が、患者さんが出来るようになった



ことを1年目・2年目の看護師、病棟スタッフと一緒に喜びながら、地域で生活していけるよう支援を続けていきたいと思っています。

## 最近の出来事

鹿教湯三才山リハビリセンター  
介護療養型老人保健施設いずみの

一科 33 期生  
松本 美香

数年に渡る鹿教湯三才山リハビリテーションセンターの再編成も終盤となりました。2023年10月には三才山病院と鹿教湯病院の統合があり、三才山病院から患者・利用者と職員が引っ越しを済ませ新たな病院として再運用となりました。残り駐車場の整備をもち再編成も終了となります。

私自身も異動となり、新たな環境で学ぶ事が沢山あり充実した日々

を送っています。異動した職場には、佐久看護専門学校の同期生が働いているという偶然も重なり、学生時代の話をしたり、現在の状況を共有したりと新たな繋がりも出来ました。卒業して30年以上が経過している中でも、同期の存在は頼もしく、また懐かしい気持ちとなりました。同窓生の頑張っている姿をみて、自分自身も頑張らないと、日々気合いを入れ直しています。今後も自身の看護観を大切にしつつ日々精進していきたいです。



## 同窓会活動

一科 19 期生 同窓会長

小松 孝子

前任者より依頼を受け、第25期佐久総合病院看護専門学校の同窓会長に就任したのは令和4年の9月でした。奇しくも同年の5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されてはいましたが、世の中の動きとは異なり医療界の中は、まだまだ感染症に対する危機感、職員の行動制限が続いていました。そのため、前期同様総会の中止という幕開けとなりました。それでも学校主要行事においては、内部関係者のみの縮小開催から令和6年度の入学式では、一部来賓をお招きしての式典挙行が5年ぶりに開催となりました。9月に開催された戴帽式は宣誓式と名称変更され、宣誓式の感動と誓いを胸に秘めた学生さんの姿に遠い日の自分の姿を重ね、気持ちが引き締まる思いでした。

近年、少子化や大学進学率の増加に伴う志願者の減少など学校も厳しい直面を迎え、令和7年度、第66期生の入学より定員数が40名となりました。如何なる状況下においても同窓会は、「愛ある看護師」を育てる環境を見守り、支えていきたいと思っています。現在卒業生は5000名を超えました。コロナ禍においても様々な年齢層の皆様が活躍されていた姿を誇りに思っています。

今後とも同窓会へのご支援を宜しくお願い致します。



64期宣誓式

## 各事業所の紹介



JA 長野厚生連

浅間南麓こもろ医療センター

私たちは医療を通じて、お互いに助け合いながら、  
経済と心と健康の豊かさを実現する運動（農業協同組合の精神）を行います。  
そして厚生連医療の理念に従い、「医療は住民のもの」という標語を掲げて、地域の皆さんの暮らしや健康、そして、命の源として欠かすことのできない農業と農村の自然環境を護ることを念頭に置いています。その実現のために、病院開設以来、次の3本の柱を立てて参りました。



年間約 2,000 台の救急搬送を  
受け入れる

さ  
さ  
え  
あ  
い  
た  
す  
け  
あ  
い  
住  
民  
と  
と  
も  
に

### 浅間南麓こもろ 医療センター

Asama Nanroku Komoro  
Medical Center



第一に、地域の中核病院という自覚を持ち、常に研鑽を重ね、質の高い医療を提供すること。

第二に、治療にまさる保健予防活動の展開と、農村の急速な高齢社会対応した介護・福祉活動を積極的に進めること。

第三に、救急医療の365日24時間応需体制です。





佐久総合病院



## 佐久医療センター 佐久総合病院

Saku Central Hospital.  
Saku Hospital.

1944 年に 20 床から始まった佐久病院は、地域のニーズに応えることを使命とし、その役割を果たすため、診療所や老人保健施設、分院、訪問看護ステーションなど機能を拡充させてきました。

現在は 3 病院、1 診療所、2 老人保健施設、6 訪問看護ステーション、1 宅老所を有し、さらに JA 長野厚生連健康管理センターと佐久総合病院看護専門学校の運営を実質的に担っています。

また、南佐久郡南部地域では各村の国保診療所にも医師を派遣しており、そのほかジェイエー長野会をはじめとした福祉施設などとも連携を深めています。

高齢者から子どもまで住民のいのちと環境を守りながら、地域包括ケアを実践し、地域・時代のニーズに沿った安心・安全で質の高い医療サービスの提供をめざしています。

佐久医療センター



小海分院



小海診療所



看護専門学校





## 南長野医療センター

篠ノ井総合病院は 1967 年（昭和 42 年）、新町病院は 1962 年（昭和 37 年）に開院した病院です

篠ノ井総合病院は急性期医療、新町病院は回復期・慢性期医療を中心に提供する病院と位置づけられています

南長野医療センター  
篠ノ井総合病院  
新町病院

Shinonoi General Hospital  
Shinmachi Hospital

少子高齢化・人口減少の時代を迎え、それぞれの病院の機能見直しがなされ、2019 年 4 月 1 日篠ノ井総合病院と新町病院が経営統合し、南長野医療センターが誕生しました。



## 恐竜レース 2024

ティラノサウルスレース in 信州新町の様子  
レースへの参加、救護で病院スタッフが参加しました



## 第 16 回新町病院 病院祭の様子

今回の病院祭は地元信州新町の観光イベントとのコラボ開催となり、普段来院される機会がない方も大勢足を運んでくださり賑やかな病院祭となりました。





北アルプス医療センターあづみ病院は、開院 78 年。  
質の高い医療と社会への貢献をとおり地域の方々に  
信頼される病院をめざしています。

## 北アルプス医療センター あづみ病院

North Alps Medical  
Center Azumi Hospital



白馬診療所と院内の様子



2016 年に完成した新館にはコンビニも併設されています



## お知らせ

## 同窓会員の死亡時の対応について

## 定年前

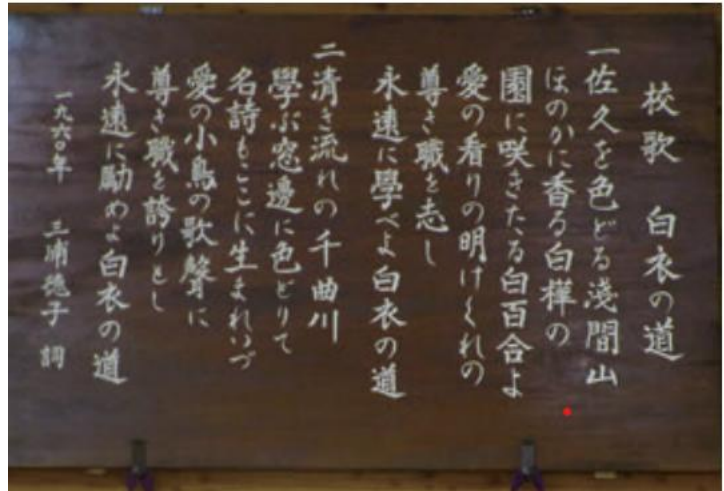
生花一基、弔電（あわせて二万円以内）

## 定年退職後

弔電（五千円以内）

訃報の連絡は、同級生またはご家族より看護学校へお願いします。

ご連絡をいただいた方について同窓会費より死亡弔慰金として対応させていただきます。



役 員	第 25 期役員	第 26 期役員
会 長	小 松 孝 子	土屋美佐子
副会長	永 井 久 子 佐 藤 史 恵	小 松 孝 子 石 井 こ ず 恵
書 記	黒 澤 悠 子 清 滝 す み れ	遠 藤 貴 美 黒 澤 真 弓
会 計	佐 塚 友 美	武 田 加 奈 子
会計監査	橋 爪 満 紀 子	上 原 晴 美
事務局	原 田 愛 遠 藤 琴 美	伏 見 礼 子 坂 本 静

## あとがき

佐久総合病院看護専門学校の卒業生が5,000人強となる中、同窓生の皆様はお元気で過ごしてでしょうか。三年に一回の同窓会ニュースはいかがでしたか？

今回から同窓会ニュースも様変わりし、佐久看護専門学校のホームページからの閲覧となりました。今までは、郵送しておりましたが、郵送代の高騰と、郵送しても戻ってくる件数も多くなり、ホームページ内に同窓会のページを作っていたいただき、そこに掲載することになりました。現在の看護学校の様子等合わせて閲覧していただけたら幸いです。

近年看護職の在り方も目まぐるしく変化していますが、校歌にもあります「尊き職を志し」「尊き職を誇りとし」を忘れずに、いくつになっても「永遠に励めよ白衣の道」で頑張っていきたいと、同窓会ニュースを発行するにあたり改めて感じるものが出来ました。

同窓生の皆様のご健康と、増々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

同窓会副会長

永井 久子

## ＜事務局よりお願い＞

役員任期は3年です、任期の途中で退職等になる場合は後任者を任命し、事務局に連絡をお願いいたします。